

(様式 3-1)

平成 29 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 30 年 5 月 9 日

代表者 風間 文明

研究課題名	女子大学生の進路決定とキャリア形成に関わる要因の検討
研究期間	平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日
共同研究者	山下 倫実
1. 今年度の研究概要	
<p>進路決定は青年期の若者が必ず直面する問題の一つである。本研究の目的は青年期にある女子大学生がどのように進路を決めていくのかについて、その規定因と進路決定プロセスを明らかにするとともに、進路決定の確信度や就職活動中、就職前の対人的なサポート、ストレスなどが入職後の職場適応にどのように影響を与えるかを明らかにすることである。</p> <p>これまで 2015 年度に大学 3 年生を対象に第 1 調査を行い、2016 年度には同一の調査対象者について、大学 4 年次の夏（就職活動中）に第 2 調査、1 月（就職活動後）に第 3 調査、卒業時（就職直前）に第 4 調査をそれぞれ実施してきた。第 2 調査以降から得られた主な研究結果は以下の通りである。(1)就職活動中にストレスを経験するほど就職活動による自己成長を高める場合がある。また、就職活動中に役割占有感が高いほど自己成長につながる。(2)就職活動中のソーシャル・サポートは、就職活動への積極性を高める一方で、「負担」や「圧力」として機能する側面がある。(3)就職活動前に決定した進路に確信を持っているほど就職活動中のストレスが低減される。また就職活動前の役割占有感、自己効力感が高いほど就職活動による自己成長感が高まる。</p> <p>今年度の研究では、第 3、第 4 調査の分析をより詳細に行うとともに、大学を卒業した調査対象者について、第 5 調査を実施し入職後の職場適応に対する在学中の規定因を探索することを主な目的とする。大学在学中の進路決定のあり方、就職活動への取り組み方などが就職後の職場適応に影響を与えている可能性は十分に考えられる。本研究での縦断的調査の結果を統合的に分析することで、大学生の進路決定から実際の就職活動を経て入職後の職場適応に至るまでのモデルを構築し、進路決定や就職活動に悩む大学 4 年生、職場適応を図ろうとする新入社員に対する、より実践的な支援策を提言することができると思われる。</p>	
2. 研究の成果	
<p>(1)第 4 調査までの成果：第 3 調査では、就職を前にした就職不安、就職後の願望、効力期待、就職前の高揚感、そして就職前の時期のソーシャル・サポート源などについて質問項目を設定した。研究計画に基づき、大学 4 年終わりの 1 月に調査実施した。その結果、就職を控えた時期に友人からのソーシャル・サポート割合が高いほど、能力適性に関する就職不安が低減し、結果就職後の異性との出会い願望が低下すること、親しい異性からのソーシャル・サポート割合が高いほど人間関係に関する就職不安が低下し、信頼獲得への願望が高まることなど、サポート源の種類によって就職不安と就職後の願望に対して異なる効果を持つことが明らかとなった。また第 2、第 3 調査を統合した 33 名分のデータについて縦断的な分析を行った結果より、就職活動中に他者と比べストレスが高かった者ほど就職前に配属や収入への不安が高いこと、不合格のストレスが高かった者ほど社会人になることへの不安が高いことなど、就職活動中のストレスが就職を目前にした時期の就職不安をむしろ高める働きをすることが明らかになった。また就職活動中に役割占有感が高かった者ほど就職を目前にした時期の就職不安が低いことが示され、活動中に役割占有感を高める働きかけが、後の就職不安の低減に有効である可能性が示唆された。第 4 調査も含め今後分析を継続する。</p> <p>(2)第 5 調査の分析：2018 年 3 月（就職後 1 年）に第 5 調査を実施した。現在、分析中である。</p>	

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

【論文】

風間文明・山下倫実(2017). 就職活動中のストレスと自己成長感の規定因に関する縦断的検討—就職活動前の自己効力感、進路決定、役割占有感に着目して— 十文字学園女子大学紀要第 48 巻,157-166. (2018 年 3 月 31 日発行)

【学会発表】

風間文明・山下倫実(2017). 女子大学生の進路決定と対人環境の関係(4)—就職活動ストレスと役割占有感、自己効力感が自己成長感に及ぼす影響— 日本教育心理学会第 59 回総会発表論文集,486. (2017 年 10 月 8 日：名古屋国際会議場)

山下倫実・風間文明(2017). 女子大学生の進路決定と対人環境の関係(5) —情緒的/道具的サポートが就職活動及び就職活動ストレスに及ぼす影響— 日本教育心理学会第 59 回総会発表論文集,487. (2017 年 10 月 8 日：名古屋国際会議場)

風間文明・山下倫実(2017). 女子大学生の進路決定と対人環境の関係(6)—就職活動前の進路決定と自己効力感、役割占有感が就職活動ストレスと自己成長感に及ぼす影響— 日本心理学会第 81 回大会発表論文集,152.(2017 年 9 月 21 日：久留米シティプラザ)

【今後の公表予定】

第 2 調査から第 5 調査の結果は、平成 30 年度日本教育心理学会第 60 回総会（2018 年 9 月 15 日～17 日：慶応大学日吉キャンパス）、平成 30 年度日本社会心理学会第 59 回大会（2018 年 8 月 28 日～29 日：追手門学院大学）、平成 30 年度日本心理学会第 82 回大会（2018 年 9 月 25 日～27 日：仙台国際センター）において発表予定である。発表方法はポスターを予定している。また本学紀要にも論文を投稿する予定である。